柏葉

学校だより　第３２号
令和４年１２月　９日(金)
福島県白河市立東北中学校
発行責任者　校長　渡邊泰昌
「自分の未来を切り拓け！」

授業参観ありがとうございます

12月2日（金）に2学期のまとめとして、第3回授業参観が行われました。忙しい中、たくさんの保護者の方が来校してくださりました。感謝申し上げます。子ども達は、この2学期に、さらに大きく成長することができました。その姿を見ていただき、生徒が新しい目標に向かって進めるよう「節目」にすることができました。

平久江真菜さん　福島県司法書士会長賞　受賞

我が家のジェンダー平等

平久江真菜

私の母の口癖だ。夜の八時・九時に帰ってくることも少なくない。帰ってくるとすぐ様エプロンをつけ、夕飯の支度を始める。食べ終わると、父や私はその間スマホを見たり、テレビを見たり、お風呂に入っている。このような日々が続くと、母は決まって、「どうして女の人が台所に立たないといけないの？」とつぶやく。

「パパはいいよねー。」

私は、母の一日を振り返ってみた。家族の誰よりも早く起きて朝食を作り、私を見送ってから、仕事に行く。帰ってくると、休む間もなく家事をして、家族の誰よりも遅く寝る。一方、父の一日は、できあがった朝食を食べ、仕事に行き、ほぼ残業もなく定時に帰ってくる。母の帰りを待ち、できあがった夕食を食べ、お風呂に入り、寝る。母と父の一日をこうして比較してみると、母の負担が大きく感じられる。

どうして女の人が台所に立つのか、私も考えた。小学校の行事で、お母さん達は豚汁を作り、お父さん達はもちつきをしていた。家に人が集まると、女の人は台所に立ち、男の人はお酒を飲んでいる。「男性は外で働き、女性は家を守る。」このことから、女性が台所に立っているのだろう。おいしいお料理に、大人も子どもも喜びが増すだろう。

実を言うと、私も家には母がいつもいてほしいと思っていた。学校や塾の送り迎え、帰ればおいしいご飯が出来上がっていて、それが毎日食べられる。サザエさんやちびまる子ちゃんのような家庭が私の理想なのだ。

しかし、今私が生きている令和の時代は、女性が活躍する場も増え、男性と肩を並べて働いている。男性も、家事をするのが当たり前になってきている。得意、不得意はあるかもしれないが、家事を意識する男性は増えてきているだろう。母の口ぐせを、何度も聞いている父もその一人だ。父なりに料理に挑戦しているものの、向いていないようだ。しかし、リビングの掃除機がけと、洗濯は毎日やっている。仕事から帰ってきた母は、部屋がきれいになっていることや、洗濯物が干されていることに気がつくと「パパありがとう。」ときちんと父に感謝の言葉を伝えている。父は、母の仕事の大変さを理解し、家事を補い、母が働くことを尊重している。母は、働ける環境を作ってくれている父に感謝している。

我が家のジェンダー平等は、相手を思う気持ちから生まれる優しさと、協力し、助け合う思いやりの精神で成り立っている。

女性の社会進出に、男性が生きにくい世の中であると思われるが、昔、女性も同じようなことを思っていたのだとしたら、ジェンダー平等への取り組みは、今後の社会に良い影響をもたらすだろう。

私も将来、お互いの仕事を理解し、尊重し合えるパートナーと出会い、母のように思いっきり働きたい。（全国人権作文福島県大会受賞作品）